



よい環境がよい人材を育てる

～環境指導から導く制作指導～

鹿児島県立松陽高等学校 美術部 教諭 上木原 堅一

1 学校・部の概要

本校は、昭和 58 年に鹿児島市福山町の山林を切り開いて開校し、校内の木々にも四季折々の小鳥の姿が見られるなど自然豊かな敷地内にある。

本校の敷地は約 10 万平方メートル、H 型に配置された本校舎の周辺には、体育館・武道館・プール等の建物があり、校庭は 400m トラックがとれる広さがある。平成 7 年度には芸術棟が完成し、音楽科と美術科が設置される県内唯一の芸術拠点校となった。L 字型の 3 階建てからなる芸術棟は、コンサートホールや 25 室におよぶレッスン室や個人練習室を完備し、美術科における専門分野の実習のために油絵室、彫刻室、木工室、デザイン室等も設置されている。もちろん、講師陣も充実しており、音楽科と美術科を合わせると総勢 40 名もの先生方にご指導いただいている。

1 つの学年に普通科の 6 クラスと音楽科・美術科が各 1 クラスずつ設置されており、約 900 名の生徒が在籍している。美術科の生徒は、自動的に美術部にも所属することになっており、3 学年で 120 名前後の大所帯となっている。ほとんどが美術科の生徒ということもあり、進



10 万ヘクタールの広大な敷地



芸術棟。3 階建ての校舎には音楽科と美術科の専門の授業で使用するレッスン室や実習室が設置されている。



文化祭の校門アーチ制作（3 年生）

級時のクラス編制も行われなかったため、一つの家族のような部活といつてよい。

美術科においては、高校入試の際に実技試験を実施しているため、ある程度のデッサン力があり、学校行事における校門アーチや看板制作時においても全員で協力して作業にあたるということも得意としている。制作場所や個人の道具を収納するスペースも確保されているため、生徒たちは、それらを存分に活用しながら日々制作活動に専念している。

2 活動方針

（1）常に目的意識を持つ

美術部のほとんどが美術科生ということもあり、授業においても美術専門の科目を数多く履修している。したがって、美術科の生徒の場合、1 年次に 7 単位、2 年次に 8 単位、3 年次に 11 単位と 3 年間で合計 26 単位の専門科目を履修する（平成 26 年度入学生）ことになっており、日々の生活の中で美術に接しない日はないといつてよい。しかし、進学先も美術系の大学がほとんどであるため、入試に向けた実技力であったり、公募展に向けての制作については、部活動の時間がメインとなるため、6 時間授業である日は 16 時から 18 時 30 分までの約 3 時間を使用して活動を行っている。

運動系の部活動と異なり、一斉に体操を行うといったタイムスケジュールがあるわけではなく、個々がそれぞれに取り組んでいる課題や制作を自分自身で立てた計画をもとに行っている。基本的には、芸術棟にある制作室や実習室を自由に使用してよいが、1 年生は普通科が授業で使用している本館の美術室が主な活動となり、2・3 年生が芸術棟にある専門の制作室を使用している。部

屋数は多いとはいえ、人数も多いため時間帯にもよるが一人あたりの活動場所としては若干狭いかもしれない。しかし、個々が離れて活動を行うよりもお互いの作品や制作過程が見える範囲で活動を行うことが重要であり、友人同士はもちろん、先輩と後輩が近くで制作することで様々な事を教授しあったり、進路先の情報を交換しあったりすることでお互いに切磋琢磨することができるのである。また、その中で段取りよく作業を進める方法を学んだり、協調性を養うという点においても重要な部分であるといえよう。活動の内容については、各自の計画やペースに任せており、こちらから適宜技法等において指導を行うこともあるが、基本的には、行事にむけて準備しなければならない事項や公募展の締め切りなどの情報を伝えるだけで、あとの計画については本人や部長ならびに各部屋の室長に任せている。そうすることで各自の目的意識が高まるだけでなく部や部屋としての連帯感が育っていくと考える。



素描の様子。モチーフの選定を相談したり、制作について講評しあったりとコミュニケーションを大切にしている。

（２）環境を整え、道具の管理をしっかり行う。

美術科が開設されて 23 年目をむかえるが、芸術棟の建物自体の老朽化もさることながら、共有の道具類や画材の管理がずさんになっている部分も否めない。過年度の卒業生の作品が多数残されており、モチーフ倉庫や木工室の廃材倉庫など問題は山積していた。そこを少しずつ片付け・清掃を行い使える物を使うようにしたり、作品の返却等を行ったりした結果、制作スペースも若干増え、消耗品の浪費も少なくなったように感じる。これまで、高校美術展などにおいて 100 名前後が同時に出品した場合、額装はその都度木材を購入し、その都度廃棄していた。これを手作りではあるが、数回は繰り返して使用できるようにしたり、パネルを収納する棚を作成したりすることで環境改善を行うことができた。

また、環境を整えることで、各自の道具の管理もしっかりとなされるようになり、道具の使用法や管理はこう

あるべきであるというイメージが刷り込まれ、生徒自身もしっかりと心がけるようになった。道具の購入については、教材費や学級費等から支払われているため、金額等をしっかりと認識していないこともあり（もちろん購入明細を学期末に渡している）道具が紛失してもそれほど気にもかけない生徒が多かったが、今後作家として活動する場合、活動費をいかにおさえるかということは、非常に重要な部分でもあるので、そういった点も含め活動の中で学んで欲しいと考えている。



素描室の様子。片付けの指導は難しい。生徒自らこうあるべきという価値観を育てることが大切である。

（３）部員の意見を大切にし、協力して取り組む。

制作に関する基本的な技法については、ある程度教師により教授しなければならない部分もあるが、大部分に関しては、生徒間で教え合うという方法を大切にしたいと考えている。内容によっては、補足が必要な部分もあるが、先輩から後輩に教授しあうことで、教える側は知識を整理するきっかけになるし、教授を受ける側は、先輩とコミュニケーションを取りながら深く学ぶきっかけとなる。これは、技法の教授の場面だけではなくお互いに作品を評価しあったり、共同作業について計画を立てる場合などにおけるディスカッションスキルについて必要となるため、日頃からそういった体制をとることが重要となってくる。



自分たちで時間を調節しながら計画的に人物の着色を行うことも重要な活動。

(4) 挨拶、活動時間、提出期限をしっかりと守る。

集団で活動を行う場合、ごく当たり前のことであるが、挨拶や下校などの時間の厳守、清掃はしっかりと行うように声かけを行っている。特に清掃は、道具の管理にもつながるので作業の終盤においてしっかりと取り組むように声かけを行っている。そして、美術科において最も重要視したいのが、作品提出の締め切り日の厳守である。作品作りにおいて終わりはなく、自分自身で終末を決定することとなる。但し、締め切り日をしっかりと決めておかないと締め切り日を守らなかつたり、終盤において下校時間を守らない者がでてくるので早めの計画と作品提出日の厳守を心がけるよう努めている。



1年生風景画合宿の様子。3日間寝食をともにしながら、10号の油絵を制作する。

3 指導上の留意点

(1) 日々の積み重ねを大切にすること。

作品制作においては、ある日突然名作が完成するということはほとんどないといってよい。日々の取り組みの一端が作品のごく一部に表れてくることがほとんどである。したがって、教師の指導は、基本的な技法の学習においてしっかりと行われるべきであり、公募展むけの作品づくりについては8割を本人の自由意志に任せることが重要であると考え。すなわち、日々の取り組みの中で参考作品などを呈示して美的な価値観を高めたり、物を見る力や表現する力を育ててあげることが大切である。但し、本人が日々の活動を大切に行わないと積み重ねが行われないので、朝補習前、昼休みなど寸暇を惜しんで取り組むことの重要性を理解させ、公募展に向けての作品づくりにだけ力を注いでも良い結果が得られないということを日頃から繰り返し伝えている。

(2) 公募展を上手に利用するが、上達は常に客観的な目線で確認。

県内で開催されている大きな公募展は、出品者数を確保するために日程が重ならないように調整されている場合が多い。そういった日程を上手に利用して2ヶ月に1回ぐらい公募展に出品できるようにスケジュールを組むと、それらを目標にモチベーションをある程度維持しながら制作を行うことができる。

ただし、公募展をあまりにも目標にしすぎると制作の達成度を入選や入賞で判断してしまうので、そのあたりをしっかりと顧問が説明する必要がある。公募展の内容や審査員がどういった人なのかなど、高校生の技術の発達速度は、公募展の入落に関係なく日進月歩であるから、結果は結果として受け止めつつも、再び前向きに頑張れるように声かけが必要となる。

そして、常に客観的な視点における美的価値観を育成することが大切であり、自身の成長の度合いについても客観的な視点で判断する力を身につけさせる必要性がある。



実技講習会の様子。本校が会場校となり、他校の美術部の生徒とともに模擬的に実技試験を行う。



美術科2年生の海外研修旅行の様子。フランスの文化施設や美術館を鑑賞する。

3 実際の活動

(1) 年間活動計画

- 4月 1年生オリエンテーション
- 5月 【県美展】
- 春季実技講習会（主催：鹿児島県高美研）
※鹿児島市内の高校にある美術部が本校に集い（約200名前後）美術予備校の講師を招いて入試対策を行う。
- 6月 ■文化祭 アーチ制作, オープニングパフォーマンス, バザー, 校内作品展示および装飾など
- 7月 ■風景画宿泊（1年生学校行事）
- 8月 ●夏期実技講習会（主催：鹿児島県高美研）
※鹿児島県内の高校にある美術部が本校に集い（約200名前後）入試対策を行う。
- 9月 【南日本ジュニア展】
- 体育祭 アーチ制作
- 10月 ●秋季実技講習会（主催：鹿児島県高美研）
※鹿児島市内の高校にある美術部が本校に集い（約200名前後）美術予備校の講師を招いて入試対策を行う。
- 11月 部長就任式および引継式
- 12月 ■海外研修旅行（2年生学校行事）
※フランスを訪れ、美術館や文化施設を鑑賞し、情操の涵養を行う。
- 【高校美術展】 【高校写真展】
- 1月 ■松陽芸術祭
- 2月 【吉井淳二記念展】 校内デッサンコンクール
- 3月 ■卒業式
- ……学校行事
 - 【】 ……公募展
 - ……鹿児島県美術・工芸教育研究会主催行事

(2) 日常の活動

- 7:00～7:35 朝部活動
- ・デッサン及び個人制作
- 13:00～13:25 昼食時活動
- ・デッサン及び個人制作
- 16:00～18:30 部活動
- ・デッサン及び公募展出品作品制作



松陽芸術祭の様子。作品点数は300点以上。県内でも注目度の高い大規模な展覧会。

4 成果と課題

美術科は、3名の常勤の教諭と14名の非常勤講師（平成29年度）により授業を行っている。14名の非常勤講師の方々はそれぞれの分野で全国的に活躍されている作家の方々であるので、それぞれの専門分野においてエキスパートの指導を受けることができる。しかし、常勤の教諭は常に担任業務を担っているため、日々の生徒動静の把握等は容易だが、さらに部活動の指導ともなると個々の指導に関して目が行き届かない部分も否めない。そこで、先輩から後輩、もしくは同級生同士の学びに委ねたいところではあるが、どうしても同級生に比べ、先輩から後輩への理想的なグループ学習がなかなか行われにくいのも課題となっている。

しかし、美術科が母体となっており、個々の技術が高いところを利点とし、同学年同士の学びを基本としながら異学年でも基礎力の共有を図っていけたらと考えている。幸いにも、各種公募展においては、本校の生徒が多数入賞に選ばれるなど活躍が著しい。すなわち、県内でも上位に位置する生徒が多数所属している部であるからこそ、生徒間で刺激を受けながら、常に向上心を持って成長できる環境であることを活かしつつ、指導を行っていきたいと考えている。



各分野の専門家による指導が受けられるのは、まさに美術科ならではの。



文化祭では、作品の展示だけでなくバザーも行い好評を得ている。